

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞
TOSHIKO『メイ』のいきいきモーニング』取材紹介施設

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人 福音の園・埼玉事務局
☎049・230・1111 FAX230・1112

ご家族の声

家族の心を癒してくれる「ありがとう」

日頃より祖母が、大変お世話になり心より感謝致しております。足が不自由で福音の園に入園して、数年が過ぎようとしています。九十歳を超える祖母ですが、とても元気で、そしてしっかりと生活している姿にとても安心しています。

なによりも家族にとって、とてもうれしいことがあります。「面会の際に祖母が、とても柔和な笑顔で私たちに「ありがとう」と言ってくれます。とても暖かい感謝の言葉は、私たちの心を癒してくれます。園で穏やかな毎日を過ごしている祖母の、家族への素晴らしい贈り物のように思います。あらためて「こちらこそおぼあちゃん

ありがとう」と感じています。

最後に、園の皆様のお世話の賜物で、こんな素敵な気持ちを頂いていることに、深く感謝致します。ありがとうございます(小山 健二)



ご面会者の声

「家族の限らない愛情の中で

福音の園に親友を訪ねて、「野田さん！私よ、甲野よ、岡安よ。アツわかったのね」と私は叫んでしまいました。懐かしそうに微笑んで、身体をのりだし私を迎えてくれた順子さんをみて嬉しくて涙が出そうになりました。順子さんとの出会いは十六歳の春、高校一年生の時でした。頭脳明晰・几帳面な順子さんと楽天的な私は、在学中はもとより社会人となり、結婚・出産・子育てと長い年月を今日まで親しくお交際させて頂いております。高校時代の写真やご主人様ともども級友たちと鎌倉へハイキングした時の写真などを広げての思い出話に、うなずいたり「ホッホッホッ」と声をあげて笑ったり、楽しい時を過ごすことができました。

ご主人様に「お父さん」と呼びかけたり、食事の時にエプロンを掛けて頂いて「どうもすいません」ときちんと挨拶をする順子さんの生活ぶりに接して胸が熱くなりました。スタッフの皆様の家庭的な暖かい介護や、ご主人様はじめご家族の限らない愛情の中で、順子さんの穏やかな日々が在ると感じました。面会を快く承諾して下さいましたご主人様に感謝し、又お訪ねしようと思心決めて帰途につきました。有難うございました。(甲野 初枝)

お便り紹介

○毎月のグループホーム便りありがとうございます。又今回は新しいパンフレットの完成、そして共用型デイサービスの開始おめでとうございます。毎回便りを拝見する度に、真剣に取り組みされている様子がみられ感嘆しております。色々なグループホームに出掛けてサービス評価

事業を行なっていますが、貴ホームの様子がよくれば、グループホームの評価ももっと上がってくるものと感じています。

畠中社会福祉士事務所

畠中 正夫

○前略。いつも優しい園のたより、今月は特にわかり易い新パンフレットや園のたより。いづれも写真入りでわが家でも大好評です。ありがとうございます。『終っいの住処すみか』は、お年寄りの中でも関心事とみえて、近所の老人会の方が一度みたくおつしやつてました。(安富 一雄)

○さんを看取って―当園「重度化指針」説明

看取の始めて三十日目の朝、旅たつ

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
『実際、内部に看護師を置いたり、協力医療機関と連携を取っているホームは6割程度(全国認知症グループホーム協会調べ)。看取りどころか、要介護度が上がると、退居させるホームもある。』

(本年三月八日付毎日新聞「どこで死にますか」より)
入居契約時「ご縁があって入居されたお方ですので、特に大病等がなければ私たちのホームで最期までお世話をさせていただきます」と、『福音の園・川越 重度化指針』についてご説明し、併せて入院や延命治療などについて書面で意思確認をさせていただいている。

○さん(八二才・女性)は、深夜自室トイレ前でうずくまる様にしやがみこまれた。居室での寝起きは困難と判断。食堂脇に移したベッドで見守り介助が始まった。看取り始めて三十日目の朝、静かに息を引き取られた。入居者・スタッフが讃美歌「いつくしみ深き」を歌い、お祈りをしてお見送りしました(二年十一月在園)。
来訪歓迎 南古谷訪問看護ステーション様(川越市)
御礼 地デジ対応テレビ テレビ朝日福祉文化事業団様